

# 12

## ■県都に残る水鳥たちのオアシス

### とやの 鳥屋野潟 (新潟市)

■環境：湖沼  
 ■対象：一般  
 ■期間：9月下旬～  
 4月上旬

50万都市新潟、新幹線や北陸・磐越道など高速道を間近に望む鳥屋野潟。近年北側はすべて住宅地で埋まり、スポーツ、文化施設が周囲を囲むなど環境は大きく変化している。そんな人の暮らしのそばで、多くのハクチョウが越冬する全国でも貴重な場所。

#### 〈朝焼けの空にハクチョウが群れ飛ぶ〉

平野の稲刈りが終わるころ、北方からガンやカモ、ハクチョウなどの水鳥たちが、越冬のため飛来し、湖面に浮かぶ。

自然科学館わきの公園駐車場に車を止め、図書館前の遊歩道を歩き、観察を始める。早朝には、ハクチョウが家族の群れになり多数湖面に浮かんでいるのを見ることができる。日の出と同時に、群れは南方数kmの水田地帯へ向け採餌のため飛び立つ。オレンジ色に輝く水面をけり、五頭連峰を背景に次々と飛行する光景は壮観である。後にはマガモ、コガモ、カルガモ、オナガガモ、ヒドリガモ等のカモ類1万羽ほどが湖面に残っている。

新潟平野が一面雪に覆われると、ハクチョウやヒシクイがびっしりと湖面を埋め、一日

中浮かんでいる。

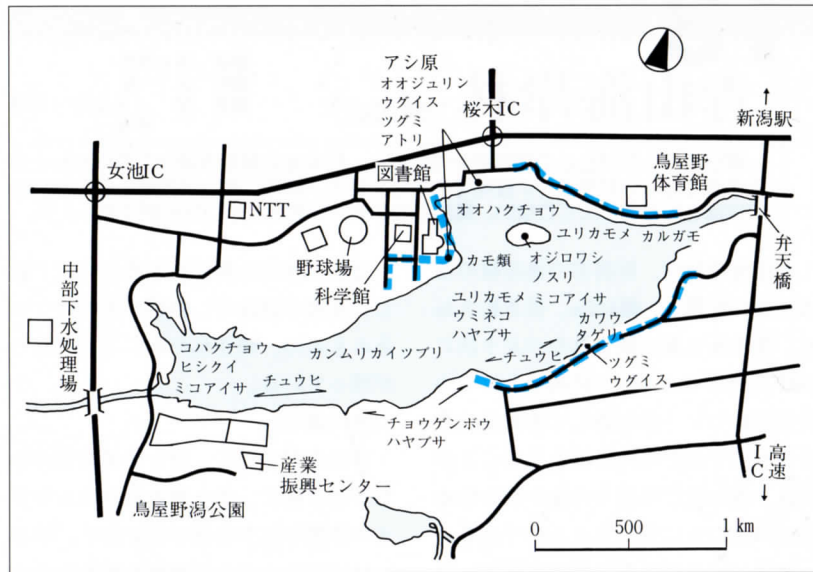
潟中央には白黒羽模様のミコアイサを見ることができる。30～50羽ほどの群れを観察できる場所は新潟県内でも鳥屋野潟しかない。

#### 〈樹上から獲物を狙うワシ・タカ類〉

潟を観察しながら弁天橋方向に歩く。アシに覆われ、ヤナギの木が数本生えている中州が見える。ここは翼を広げると2mにもなるオジロワシやオオワシが止まっていることがある。冬の鳥屋野潟にはワシ・タカ類が多い。時間



冬季多くの水鳥が集まる



をかけて桜の木や上空を観察するとチョウゲンボウやハヤブサ、チュウヒ、オオタカ、ノスリ等が湖面の獲物を狙っているのに出会う。

#### 〈アシ原に採餌する小鳥〉

潟周辺の枯れたアシ原には、オオジュリン、カシラダカ、シメ、ウグイス、ミソサザイが潜みながら採餌し、ムクドリやツグミも湿地の上をエサを探して移動している。

#### 〈春から初夏へ渡る鳥たち〉

桜の花が咲き、アシが緑の芽吹きを迎えるころ、キジの鳴き声とほろ打ちが湖面一帯に響く。パン、ヨシゴイが渡来し、オオヨシキリやカッコウが終日鳴く。湖上をコアジサシが魚を求めて、ひらひ

ら飛ぶ姿が見られると、入道雲が越後山脈に沸き上がる夏が始まる。

(石部 久)

#### メモ

**交通** JR新潟駅南口から長潟行きのバスで、「自然科学館前」下車、もしくは長潟行きのバスで「弁天橋」下車、徒歩5～10分。

**回** 自然科学館前の駐車場が広い。鳥屋野体育館前にも駐車場はあるが、スポーツ大会等の場合は混雑する。トイレは体育館にある。

**探鳥会** 自然科学館主催の探鳥会が冬の間定期的に開かれる。

問い合わせ先：県立自然科学館

☎025-283-3331 自然科学館にはブナ林のジオラマなど自然界の生態系をモデル化した展示物が数多くある。イヌワシ、トキ等の標本が展示されている。